

5
vol. 243

広報 縄文村だより vol. 243(5月号)

Jomon Times



令和8年5月1日
●編集・発行●
奥松島縄文村歴史資料館
東松島市宮戸字里81-18
TEL 88-3927 FAX 88-3928



東松島市文化財講演会 **ここまでわかった!**

赤井官衙遺跡

3月15日(日)赤井市民センターで東松島市文化財講演会「ここまでわかった!赤井官衙遺跡」を開催し、東北学院大学博物館学芸員・文学部非常勤講師の佐藤敏幸(さとうとしゆき)先生にご登壇いただきました。

赤井官衙遺跡群の調査の歴史、明らかになった遺跡の重要性!

赤井官衙遺跡は約1,300年前に現在の石巻地方を治めた古代の役所・軍事施設跡です。1986年から始まった赤井官衙遺跡の発掘調査と、その調査から明らかになった遺跡の重要性、なぜ日本の歴史を知るうえで重要な遺跡であると評価され、国の史跡に指定されたのかをお話いただきました。ポイントは以下の3つです。

01 POINT
関東からの移民集落をベースに古代牡鹿郡の役所・軍事施設が造られたことがわかる



当時の関東地方の特徴を持つ土器や建物などから、関東からの移民集落があったことがわかっています。その後、古代の役所、軍事施設に造り替えられました。こうした変遷が明らかになっている遺跡はほとんどなく、赤井官衙遺跡の大きな特徴と言えます。

02 POINT
蝦夷の領域における古代の役所の実態や役人の出自がわかる

役人の出自がわかることが特に重要で、日本で赤井官衙遺跡だけ!だそうです。古代牡鹿郡のリーダーであった道嶋(丸子)氏が現在の千葉県房総半島から移住してきたことが文献からわかっており、墓の形態に共通する特徴が見られることから、考古学的にも裏付けることができます。



03 POINT
律令国家成立期の東北経営が理解できる

ポイント①・②を総合して、当時の日本が関東の人々を東北に移住させ、その移住者に在地の人々を支配させたことがわかる遺跡だということがとても重要ということでした。



“ 続きの話は次回に!

残念ながら、お話の途中で予定の時間となったため、古代牡鹿郡のリーダーであった道嶋氏や、その墓地である矢本横穴の詳しいお話はまた次回ということに。アンケートでも続きを期待する声が多数寄せられましたので、佐藤先生にはあらためて講演をお願いさせていただきたいと考えています。

縄文体験・体感 WEEK! 5.2と5.5 9:30-14:30 (5日のみ 10:00-14:30)

毎身体験できます!

まがたま作り【40~60分】
¥400

シカ角ストラップ【40~60分】
¥400

火おこし体験【15~30分】
¥150 ※時間入替制 ※強風・雨天時休止

貝塚ガイドツアー【60~80分】
¥無料 10:30 / 13:00 出発 ※強風・雨天時休止

日替わりMENU

5/2 SAT **2** イノシシの土鈴【60~90分】
¥500 ※お渡しは約1ヵ月後となります。粘土でかわいいイノシシを作ろう!

5/3 SUN **3** 貝のプレスレット【40~60分】
¥300 貝を割って削って腕輪にしよう!

5/4 MON **4** コハクのアクセサリー【60~90分】
¥2,000 樹脂の化石・コハクを削ってまがたまを作ろう!

5/5 TUE

こどもの日は入館&体験無料DAY!



火おこし・まがたま・シカ角ストラップ・弓矢から3つ選んで体験できます。



最新情報はこちらから



シリーズ 第60回

東松島の教育を語る



~学校と家庭の橋渡し役~

東松島市教育委員会

「誰一人取り残さない教育」を推進している東松島市教育委員会では、本年度から「教育メディエーター(エディ)」という専門職を新たに設け、私がその任に就きました。

メディエーター。あまり馴染みのない言葉と思いますが、簡単に言うと「学校(教職員)と家庭(保護者)、または地域との間に立ち、双方の意見や気持ちの橋渡しをしたり、トラブルやすれ違いを対話で解決したり、必要な支援につなげる調整役」というのが主な仕事です。あくまで公正中立の立場であり、さまざまな問題やトラブルの落とし所をコーディネートする伴走者と捉えてもらえれば分かりやすいかもしれません。

私は2年前まで矢本第二中学校の校長を務めるなど、長年教職員として職務を全うしてきました。東松島市内の学校には約20年間務めた経験があり、地域の皆さんにも大変お世話になりました。

児童生徒を大切に思う真っすぐな気持ちは教職員も保護者の皆さんも同じ。だからこそ子どもたちを取り巻くさまざまなトラブルが起きた時、双方の意見にすれ違いが発生することもあるのだと思います。お互いに一生懸命なので、これ自体は日常からあって然るべきことだと思います。

私はメディエーターとして、どんな場合でも双方の話を丁寧に聞き、受け

止め、問題点を洗い出しながら、解決への方向性を一緒に考えていくことに注力していきます。まずは落ち着いて安全に話し合いができる環境整備に努めていきたいです。保護者の皆さんも教職員も、そして何より児童生徒たちが元気に笑顔で学校生活が送れるよう、支援していきたいです。

私は市教育支援センター「ひがまつBASE」を拠点に、毎週月・水・木曜に相談を受け付けています(月・木曜は午後のみ)。

お悩みの方はぜひお気軽にご一報ください。保護者の皆さんからの相談がメインになると思いますが、当然、教職員の皆さんの悩み相談にも応じます。それが「誰一人取り残さない教育」だと思います。



教育メディエーター(エディ) 黒沼俊郎さん

■問 教育支援センター「ひがまつBASE」 ☎25-4882